

# 農 研 速 報

平成 30 年 8 月 27 日発行  
 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室  
 〒301-0816 茨城県龍ヶ崎市大徳町 3974  
 TEL: 0297-62-0206 FAX: 0297-64-0667

## 大豆の生育状況(8月24日現在, 龍ヶ崎市)

地 域 名	生育ステージ		生育(作柄・品質)概況	備考
	本 年	平年対比		
茨 城 県 (龍ヶ崎市)	タチナガハ 莢伸長期～ 子実肥大期	1 日早い	<p>龍ヶ崎市における 8 月第 2 半旬～第 4 半旬の気象および大豆の生育概況は、下記のとおりである。</p> <p><b>【気象】</b>                      気 温: 平均気温は平年より 1.0℃低く推移した(図 1)。                      降 水 量: 平年比 48%とかなり少なく推移した(図 2)。                      日照時間: 平年比 90%とやや短く推移した(図 3)。</p> <p><b>【生育】</b>  <b>タチナガハ:</b> 主茎長は平年よりやや短く、分枝数は平年より少なかったが、主茎節数は平年並、茎の太さは平年より太かったため、地上部生体重は平年並となった。しかし、一株莢数は平年より少なく、一株莢重は平年より極めて少なかった。これは、開花期頃の高温と、降水量の不足が影響したと推察された。</p> <p><b>里のほほえみ:</b> 分枝数は平年より少なかったが、主茎長は平年より長く、主茎節数は平年並、茎の太さは平年より太かったため、地上部生体重は平年よりやや重くなった。しかし、一株莢数は平年より少なく、一株莢重は平年より極めて少なかった。これは、開花期頃の高温と 降水量の不足が影響したと推察された。</p> <p><b>納豆小粒:</b> 分枝数は平年より少なかったが、主茎長、主茎節数は平年並、茎の太さは平年より太かったため、地上部生体重は平年並となった。しかし、一株莢数は平年より少なく、一株莢重は平年より極めて少なかった。これは、開花期頃の高温と 降水量の不足が影響したと推察された。</p> <p>写真 1 に 8 月 24 日時点の所内大豆の生育状況を示した。</p> <p><b>【注釈】</b>                      1) 対平年遅速は開花期の本年値と平年値の差による。</p>	<p>●病虫害防除をこれまでに 3 回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英害虫防除: 8/2,8/17,8/23</li> <li>・紫斑病防除: 8/17,8/23</li> <li>・葉焼病防除: 8/2</li> </ul> <p>○紫斑病の防除適期は、開花期の 20～30 日後頃である。</p> <p>○「里のほほえみ」は、「タチナガハ」よりべと病が発病しやすい傾向であるため、防除に努める。</p> <p>○病虫害の発生予察は、病虫害防除所のホームページを参照する。                      ( <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</a> )</p>
	里のほほえみ 莢伸長期～ 子実肥大期	2 日早い		
	納豆小粒 開花終～ 着莢期	1 日早い		

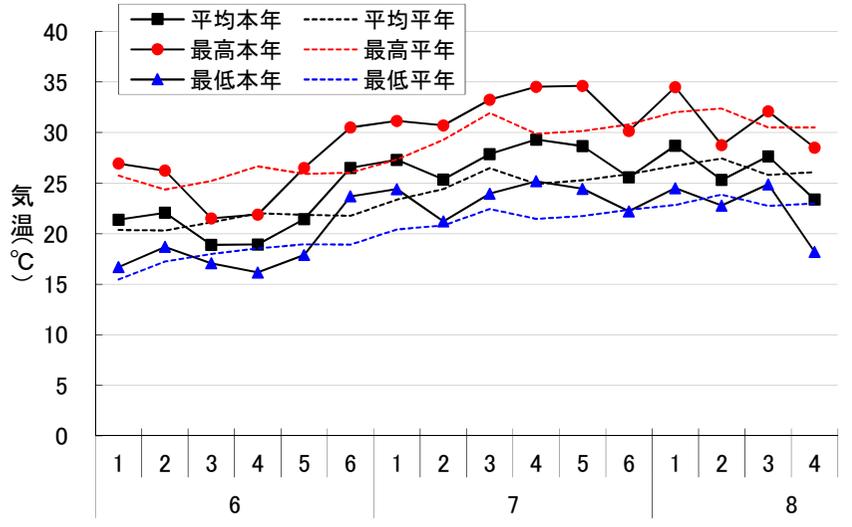


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移 (月・半旬)

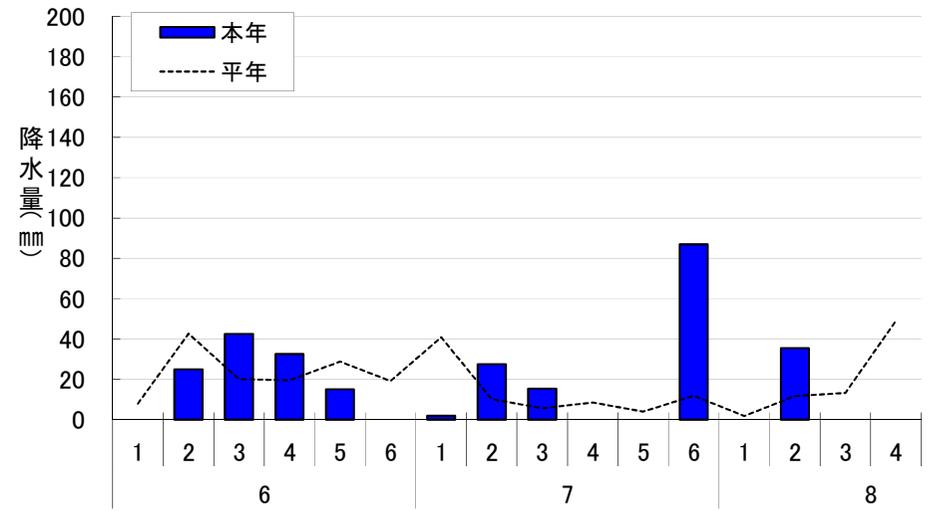


図2 半旬別降水量の推移 (月・半旬)

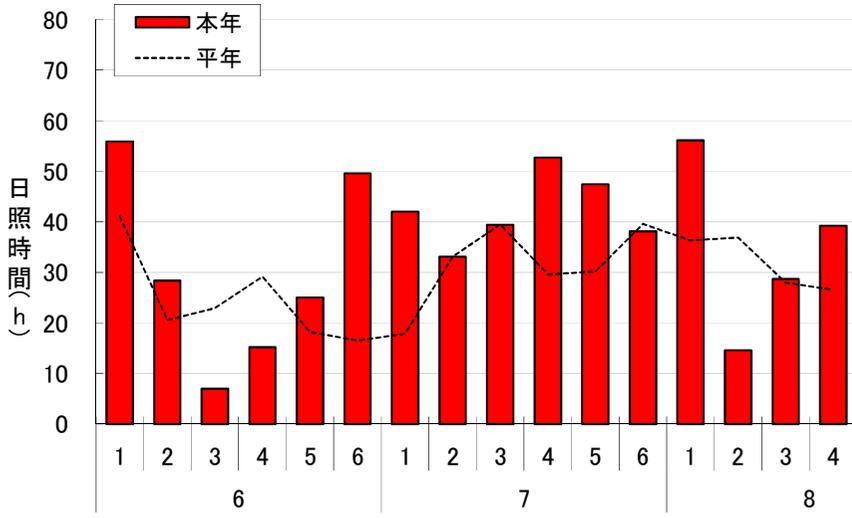


図3 半旬別日照時間の推移 (月・半旬)

表1 輪換畑における大豆の生育（龍ヶ崎市，水田利用研究室）

品 種	開花期			主茎長			主茎節数			分枝数			茎の太さ		
	本年 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	7.30	7.31	7.31	56.2	99	93	14.4	106	101	3.7	96	81	13.2	119	118
里のほほえみ	7.30	7.31	8.01	66.2	110	113	14.5	98	101	3.8	125	84	14.3	131	118
納豆小粒	8.06	8.08	8.07	83.6	86	100	17.2	92	97	6.3	89	85	12.5	123	116

品 種	地上部生体重			一株莢数			一株莢重		
	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	253.5	101	98	67.7	85	70	16.2	37	40
里のほほえみ	271.0	108	107	60.8	86	65	10.4	23	34
納豆小粒	287.3	107	100	113.5	73	71	3.5	30	43

【耕種概要】

- 圃場来歴：転換1年目（前作麦）
- 播種：6月18日播種，11.1株/m<sup>2</sup>（畦間60cm，株間15cm）1本立て
- 基肥：N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=0.3-1.2-1.2kg/a
- 中耕・培土：7月11日（1回目），7月18日（2回目）

【注釈】

- 生育調査は8月24日に実施
- 茎の太さは子葉節と初生葉節の中間で最も太い部分を測定
- 地上部生体重は子葉節で切断した地上部の重さ

【平年値】

- 「タチナガハ」と「納豆小粒」は平成25年～平成29年産の5ヶ年の平均値
- 「里のほほえみ」は平成27年～平成29年産の3ヶ年の平均値



写真1 所内大豆の生育状況（8月24日撮影，左からタチナガハ，里のほほえみ，納豆小粒）